

# 船橋市社会科セミナー通信 第192号

## 11.17土 報告

勉強会会場は、いつもの〈船橋市勤労市民センター〉。今回の出席者は、会場担当で事務局長の冨澤真也（芝山西小）と佐藤一巳・野宮典子（浦安市浦安中）・藤木信弘（若松小）・大野肇（県立行徳高校）。の各先生と会長の池田（長野県安曇野市在住）の**合計6名**。

その後の懇親会は、近くのフェイスビルの居酒屋で4名が参加でした。

## 1本目:知っ得ニュース61

池田義光

現代社会の情報と考察のため、今回も会員の皆さんが知っておくべきニュース、知って得するニュースをとりあげて、その解説を行ってきた「知っ得ニュース」も毎回1本ずつ報告してきて、今回で61回目になりました。

### [1]TV《林先生の初耳学》から

#### 1 「本日中に食べてください」というケーキは本日作ったとは限らない

(1) 売れ残ったケーキは、生クリームとフルーツを取り替えて翌日販売することがある

① 食品衛生法では、ケーキは毎日廃棄しなければならない義務はない

② ケーキの消費期限表示は、コンビニのケーキのように1個ずつラッピングする物は表示義務があるが、ケーキ屋のケーキのようにラッピングしてない物は表示義務がない

(2) その日の分のみ販売する店は…毎日売り切れる人気店と、売れ残りは生産元へ返却するデパ地下などのケーキは、前日の作り直しということはないだろう。

#### 2 鳥取砂丘は、草を抜かないと砂丘が守れない

砂丘に草の種が飛んで来るので、雑草を抜かないと雑草だらけになるかもしれない

鳥取砂丘では、ボランティア活動で雑草を抜いている

### [2]日本の警察と警察官

～TV《ジョブチューン》から

#### 1 日本の警察には警察庁と都道府県警察がある

(1) 「警察庁」は、国の機関で、都道府県警察を指揮・監督する立場にある「国家警察」

(2) 「都道府県警察」は、全国47都道府県の「自治体警察」で、東京都は警視庁、他は各都道府県本部がある。犯罪捜査の実働部隊を持ち、個人の生命・財産、公共安全と秩序といった警察の職務を行う。

#### 2 警察官には厳しい階級がある…役職も給料も上下関係も階級で決まる

(1) 下は「巡査」から上は「警視総監」に至る

「巡査」から始まり、「巡査部長」「警部補」「警部」「警視」「警視正」「警視長」「警視監」「警視総監」までとなっている。

実際には警察官の階級には入らないが、「巡査」経験が10年以上になっても「巡査部長」になれない者の士気を高めるために「巡査長」というものもある。（「こち亀」の両さん）

(2) 役職は階級によって決まっている

「警察本部長」は警視監または警視長、「警察署長」は警視正または警視、「警察署の課長」は警視または警部、「警察署の係長」は警部補、「主任」は警部補または巡査部長から成る

(3) アニメやドラマでは

「巡査」…「こち亀」の中川圭一。「相棒」の冠城亘（反町隆史）

「巡査部長」…「こち亀」の大原部長。「相棒」の亀山薫（寺脇康文）と甲斐亨（成宮寛貴）と伊丹憲一（川原和久）と芹沢慶二（山中崇史）と米沢守（六角精児）

「警部補」…「踊る大捜査線」の青島

「警部」…「ルパンシリーズ」の銭形警部。「相棒」の杉下右京（水谷豊）

(4) 実際の人割割合は

「巡査」が約30%、「巡査部長」が約30%、「警部補」が約30%で、この3つで約90%。

残り約 10 %のうち 7 %が「警部」で、「警視」以上は約 3 %しかいない。

### (5) どうやって出世するのか？

- ①上級の階級に上がるための試験(筆記・実技・面接・論文など)が年 1 回あり、合格する必要がある。時には倍率 100 倍のこともある。
- ②試験を受けられるためには上司の推薦が必要

## 3 キャリアとノンキャリア

### (1) キャリア

#### ①試験が必要ない人たちがいる＝キャリア組

キャリアとは、国家公務員 I 種試験の合格者から、警察庁が将来の幹部候補生として年 12 名程度採用したエリートたちのこと。他の省庁も同様

#### ②キャリアの昇進

キャリアは警察庁に入庁し警察学校に配属されていきなり「警部補」からスタートする。警察学校を出て警察署で見習いをすれば 1 年で「警部」に昇進。その後警察庁で 2 年間勤務し、再び警察学校で教育を受ければ「警視」になる。25・26 歳で警察署長になれる。その後、警察庁と都道府県警察を行ったり来たりしている間に階級も役職も上がる。

### (2) ノンキャリアの昇進

#### ①ノンキャリアとは、各都道府県警察が実施する試験に合格して採用された人。

#### ②ノンキャリアの昇進

ノンキャリアのスタートは「巡査」で交番勤務から出発する。その後昇級試験を受けて合格すれば昇進する。大卒の場合実務経験 1 年で「巡査部長」の受験資格ができる。上司の推薦を受けて受験し合格する必要がある。「巡査部長」昇進後実務 1 年で「警部補」受験資格ができる。「警部補」になったら実務 4 年で「警部」受験資格ができるので、計算上は最短 6 年で「警部」もあり得るが、実際にはほとんどそうは行かない。ノンキャリアの 9 割が「警部補」で定年を迎える。そこまで行かない人もいる。定年までに「警部」になることや、ましてその上の「警視」以上になることはまずない。

## 4 警察官の仕事には

- (1) 地域警察部門 地域課とも呼ばれ主に交番勤務(立ち番などの在所勤務やパトロール、事件への出動など)
- (2) 刑事警察部門 ①強行係(捜査 1 課、殺人事件など凶悪事件の捜査)・②知能犯捜査係(捜査 2 課、詐欺・贈収賄など)・③盗犯係(捜査 3 課、空き巣・スリなど)・④組織犯罪対策係(捜査 4 課)・⑤鑑識係(事件現場での鑑識活動、それ以外の鑑定は科学捜査研究所)・など  
「刑事」とは刑事事件を担当する警察官
- (3) 交通警察部門 白バイなどの交通指導係・事故捜査係
- (4) 生活安全部門 少年係・生活安全捜査係(ストーカーやゴミの不法投棄の取り締まりなど)
- (5) 警備部門 機動隊など
- (6) 警務部門 民間企業の総務

## [3]世界の工業

### ～NHK Eテレ《高校地理講座》から

### 1 工業の立地条件

#### (1) セメント工場の立地条件

大分県津久見市という海沿いの町は、約 3 km の地点に石灰石の鉱山(新津久見鉱山)があり、そこからベルトコンベアでセメント工場まで運ぶことで重い原料の運搬費を抑えるとともに、製品のセメントの搬出に船を使える【原料指向型工業】

#### (2) 清涼飲料水工場の立地条件

原料が水や空気など大変得やすいので、製品の輸送費を重視して、市場近くか交通の便がいい所に立地【市場指向型工業】

#### (3) 繊維工場の立地条件

繊維工場は第一に人件費の安さを重視。他に治安が良い所、電力が安定供給できる所。最近は大分県に進出【労働力指向型工業】

#### (4) 自動車工場の立地条件

自動車は裾野の広い工業である。部品など関連工場が集積している場所が部品などの輸送にも便利でいいし、多くの工場が集まることでインフラも整備されやすい。【集積指向型工業】

#### (5) 鉄鋼業など工場の立地条件

鉄鋼業は原料の鉄鉱石・石炭などが重いし、輸入に頼っている場合は、原料や製品の輸送費を重視して港のある所に立地【交通指向型工業】

#### (6) 工場の立地条件(まとめ)

- ①原料指向型：製品より原料の重量が大きい場合や原料産地が特定の場所に限定(セメント、鉄鋼など)

- ②市場指向型：原料がどこでも得やすくして製品の輸送費を抑えたい場合（清涼飲料水、ビールなど）
- ③労働力指向型：安くて豊富な労働力を最重視する場合（繊維製品、電気製品など）
- ④集積指向型：工場の集積による生産費の節約を最重視（自動車、電気製品など）
- ⑤交通指向型：輸送費の節約のために交通の利便性を最重視（鉄鋼・石油化学・集積回路など）

## 2 現代工業の現状と課題

### (1) 日本の工業の空洞化

- ①日本の製造業の海外生産比率… 1980年は3.0 → 2014年に24.3%
- ②東京を100としたアジアの賃金比較(2014年)  
香港 78.0 ソウル 72.9 シンガポール 64.3 北京 23.9 バンコク 15.3 マニラ 11.3  
ジャカルタ 10.6 ホーチミン 7.8 ダッカ 4.2
- ③国内に残った企業の中には製造工程のIT化で成功した企業もある

### (2) 先進国では「脱工業化」が進んでいる

- ①産業の中心が工業から知識・情報・サービス産業へ移行している
- ②主な国の研究開発費  
U S A 44.6 兆円 中国 22.4 兆円 日本 19.0 兆円 ドイツ 11.6 兆円 フランス 6.8 兆円  
韓国 6.4 兆円 イギリス 5.4 兆円 ロシア 2.3 兆円
- ③先端技術開発の例
  - 1) 生体用接着剤…手術の際に血管や切り口を素早く30秒で接着
  - 2) 充電式空気電池…空気中の酸素を取り込んで電気を起こすので何度でも充電でき電気自動車に使用
  - 3) 窒化チタンのナノ粒子…太陽エネルギーをナノ粒子が吸収して熱に変える→海水から水蒸気を取り出して真水に変える技術

## [4]自動車の未来

### 1 トヨタとソフトバンクの提携

#### (1) トヨタとソフトバンクが新会社を設立する

国内で株式時価総額1位のトヨタと2位のソフトバンクが提携して、「配車サービスや自動運転車での宅配などを手がける新会社」を共同で設立する。

#### (2) トヨタがソフトバンクと提携する理由は？

- ①トヨタは自動車の未来を考えて、今までの自動車メーカーから「モビリティ(移動)サービス会社」をめざすと宣言。つまり、ライドシェア・カーシェアリング・レンタカー・タクシーなど「人を乗せる車」や、宅配運送車・車での販売・車でのお届け販売など「荷物や商品に乗せる車」などの「車とサービスのシステムづくり」についての、「総合的な移動サービスビジネス」をめざす。その一つとして、配車サービスや自動運転車の宅配などを手がける新会社の設立を考えた時に、ライドシェアやタクシー配車で先行する米国のウーバー・テクノロジーズ(10年前に米国でサービスを始め、65カ国の600都市でビジネス)の筆頭株主のソフトバンクとの提携は魅力ある。
- ②トヨタのめざす「モビリティサービス会社」にとって鍵になるのは「自動運転技術」。「自動運転技術」の向上にとって鍵になるのはソフトバンクが持つライドシェア会社の膨大な運転実績データ。
- ③自動運転車には大量の半導体が必要とされるが、ソフトバンクはすでに半導体大手の英企業アームを買収している。

#### (3) ソフトバンクがトヨタと提携する理由は？

- ①ソフトバンクにとって携帯電話・スマホの市場は頭打ちになってきているので、新しいビジネスとしてAI(人工知能)を使った先端事業への投資に力を入れ始めている。
- ②AI(人工知能)を使った先端事業として、自動運転車を核としたモバイルサービス分野は魅力的で、その分野に進もうとしているトヨタとの提携で、トヨタの技術とシステムを取り込むことが可能になる。

### 2 トヨタ車定額で乗り換え放題実現に向けて、2019年に実験開始

#### (1) トヨタ車の定額乗り換え放題サービス開始

トヨタは、毎月定額の会費を支払えば、好きなトヨタ車を乗り換えながら借りることができるサービスを始めると発表した。車は「所有から利用」の時代に入る。

#### (2) 2019年に実験

トヨタは、定額乗り換え放題サービスの実験を2019年初めに都内の販売店を通じて実験的に導入する。

### 3 自動運転の言葉の使用厳格化

#### (1) 現在販売レベルの車は「自動運転車」ではない

CMなどで「自動運転技術」をアピールする車が増えているが、国は、今後自動運転技術レベル1・2の車については、「自動運転車」という言葉を使わないで、「運転支援機能」付きとするように

決めた。

## (2) 国の決めた「自動運転技術」のレベル定義

レベル1：危険時に自動で止まる技術。車線からはみ出さない技術。前の車について走る技術。

レベル2：高速道路などエウインカー操作をすると自動で車線変更する技術

レベル3：自動で運転するがシステムが要請した時に運転者の対応が必要

レベル4：気象・交通などの限定条件付きで自動運転

レベル5：完全に自動運転

## (3) 自動ブレーキの現状

① 2017年制の新車搭載率は77%

② 不具合件数は2017年だけで340件

③ 障害物を検知するのは限られた条件下であり、もしもの場合に衝突を防いだり被害を軽減する程度

## 4 自動運転車で駐車場の自動利用

### (1) 自動で車が駐車場に駐車

自動運転技術車を使った新たな駐車システムの実験が、東京お台場の大型商業施設の駐車場で公開された。買い物に来た客が駐車場入口付近で車を止め、スマホの画面で「入庫」をタッチすると車は自動的に動き出して駐車場の空きスペースにバックで駐車した。帰りに客が入口で「出庫」を押すと車が入口まで自動的に出てきて駐まった。

### (2) 必要なシステム

これには「自動運転車」「必要なカメラとセンサーを配置した駐車場」「必要な情報を集めて車を誘導する管制センター」の3つが必要になる。

# 2本目:大野先生の日本史授業

大野肇（行徳高校）

大野肇先生は高校で今年は日本史を指導しています。そこで今回は日々の実践の中から、単元名 私たちの時代と歴史「江戸時代 幕府の安定期（文治政治）」の授業の学習指導案を報告してくれました。

## 地理歴史科「日本史A」学習指導案

千葉県立行徳高等学校  
教諭 大野 肇

### 1 日 時

平成30年11月1日（木） 第2限（9：45～10：35）

### 2 学 級

普通科（理系クラス） 第3学年E組（男子22人、女子11人 計33人）

### 3 学級観

本学級の生徒は、理系進学クラスで進学希望者多く、与えられた課題に比較的良好に取り組み、落ち着いた授業態度である。若干名、学習意欲や授業時間の集中力に乏しい生徒がいる。継続的に教師の5分前行動、授業目標や課題の明確化、自作教材やワークシートに取り組み、史料の読み取りや基礎基本の定着に向上が見られる。学習活動で、意見交換や発表、生徒同士の学び合いなどを通して、より主体的な取り組みを工夫したい。近現代の歴史への導入として、近現代の歴史的事象と現代の結び付きを考える活動を通して、歴史への関心を高め、諸資料や地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目させることによって、課題意識や思考力・判断力・表現力等を養うことを目指し、歴史的思考力を養いたい。

### 4 教材

(1) 教科書 高等学校改訂版 日本史A 人・くらし・未来

(2) 副教材 最新日本史図表 ワークシート

### 5 単元名 私たちの時代と歴史

「江戸時代 幕府の安定期（文治政治）」

### 6 単元の目標

- (1) 文治政治への転換と幕政改革の断行と幕藩体制の安定は、交通の発達や貨幣金融制度を確立させ、諸産業の発達をもたらしたことに関心をもって学ぼうとする意欲・態度を育てる。(関心・意欲・態度)
- (2) 武断政治から文治政治への転換について、幕府の安定と秩序の確立の視点や、交通の発達や貨幣金融制度を確立させ、諸産業の発達をもたらしたことを、資料集から、多面的・多角的に考察している。(思考・判断・表現)
- (3) 武断政治から文治政治への転換について、幕府の安定と秩序の確立の視点や、交通の発達や貨幣金融制度を確立させ、諸産業の発達をもたらしたことを、諸資料からワークシートにまとめたり、発表している。(資料活用の技能)
- (4) 文治政治への転換と綱吉の治世・正徳の治についてその意義を理解する。幕藩体制の安定は、交通の発達や貨幣金融制度を確立させ、農業・商工業など諸産業の発展をもたらしたことを理解する。(知識・理解)

7 単元の指導計画と評価計画 (2時間)

- (1) 江戸時代安定期 (文治政治) 1時間
- (2) 交通の整備と産業の発達 1時間 (本時)

8 単元の評価計画

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
・文治政治への転換と幕政改革の断行と幕藩体制の安定は、交通の発達や貨幣金融制度を確立させ、諸産業の発達をもたらしたことに関心をもって意欲的に追究できたか。	・文治政治への転換について、幕府の安定と秩序の確立の視点や、交通の発達や貨幣金融制度を確立させ、諸産業の発達をもたらしたことを、資料集から、多面的・多角的に考察し、ワークシートにまとめたり、発表できたか。	・武断政治から文治政治への転換について、幕府の安定と秩序の確立の視点や、交通の発達や貨幣金融制度を確立させ、諸産業の発展をもたらしたことを、諸資料からワークシートにまとめたり、発表できたか。	・文治政治への転換と綱吉の治世・正徳の治についてその意義や幕藩体制の安定は、交通の発達や貨幣金融制度を確立させ、農業・商工業など諸産業の発達をもたらしたことを理解することができたか。

9 本時の目標及び評価規準

(1) 目標

- ①陸上交通や全国的な海上交通網が整備されるなかで、江戸・大坂・京都を要とする全国市場が形成されていったことに関心をもって意欲的に学ぶことができる。(関心・意欲・態度)
- ②交通の発達や貨幣金融制度を確立させ、諸産業の発達をもたらしたことを、資料集から、多面的・多角的に考察し、ワークシートにまとめたり、発表することができる。(思考・判断・表現)
- ③交通の整備や貨幣金融制度を確立させ、諸産業の発達をもたらしたことを、諸資料から多面的・多角的に考察することができる。(資料活用の技能)
- ④幕藩体制の安定は、交通の発達や貨幣金融制度を確立させ、農業・商工業など諸産業の発達をもたらしたことが理解できる。(知識・理解)

(2) 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
・陸上交通や全国的な海上交通網が整備されるなかで、江戸・大坂・京都を要とする全国市場が形成されていったことに関心をもって学ぼうとする意欲・態度が育ったか。	・資料集から、多面的・多角的に考察し、ワークシートにまとめられたか。 ・自分の意見を発表し、他者の意見を聞いて、認識を深めることができたか。	・交通の整備や貨幣金融制度を確立させ、諸産業の発達をもたらしたことを、諸資料から多面的・多角的に考察することができたか。	・幕藩体制の安定は、交通の発達や貨幣金融制度を確立させ、農業・商工業など諸産業の発達をもたらしたことが理解できたか。

10 本時の展開

時間	指導	生徒の学習活動	教師活動及びの指導上の	おもな評価の観	評価
----	----	---------	-------------	---------	----

	過程		留意点	点	方法
5分	導入	<b>江戸時代安定期の産業の発達と交通網の整備について考察しよう。</b>	・学習課題を明確にし、授業の見通しを伝える。	・課題を意欲的に追究しようとしている。	観察
35分	展開	<p>1 江戸時代の産業  (1) 資料集を調べてワークシートに諸産業の発達を記入する。  ①農業 ②林業 ③水産業 ④鉱業 ⑤手工業</p> <p>(2) 発表し学び合う。</p> <p>2 交通網の整備と経済の発達  (1) 三都の発達と流通、商業の関係  資料集を調べてワークシートに陸上交通、水上交通、宿駅、飛脚制度等を記入する。</p> <p>(2) 発表し学び合う。</p> <p>3 商業の発達と貨幣の発達</p>	<p>・身近何地域の新田開発、農業技術の進歩などの要因により農業生産が増大したことを理解させる。また、商品作物の栽培がおこなわれるようになったことに気付かせる。</p> <p>・農業だけでなく諸産業が発達したことを理解させる。</p> <p>・都市の発達、産業や交通の発達により商業が盛んになり、貨幣の流通について理解させる。</p> <p>・商業の発達と貨幣の発達は、教師の説明を中心にして、幕藩体制の安定が、交通の発達や貨幣金融制度を確立させ、農業・商工業など諸産業の発達をもたらしたことに気付かせる。</p> <p>・必要に応じて机間指導し、生徒を支援する。</p>	<p>・資料集から、多面的・多角的に考察し、することができを考え、ワークシートにまとめることができたか。</p> <p>・自分の意見を発表し、他者の意見を聞いて、認識を深めることができたか。</p> <p>・幕藩体制の安定は、交通の発達や貨幣金融制度を確立させ、農業・商工業など諸産業の発達をもたらしたことが理解できたか。</p>	<p>観察</p> <p>ノート</p> <p>ワークシート</p> <p>資料集の読み取り</p> <p>発表意見</p> <p>発表意見</p>
10分	まとめ	<p>○幕藩体制の安定（元禄・正徳の時代）は、交通の発達や貨幣金融制度を確立させ、農業・商工業など諸産業の発達をもたらしたことに考察する。</p> <p>○個人または何人かでまとめたことを発表する。</p>	<p>・交通の整備→三都の発達→商業・貨幣の発達の視点でまとめさせる。</p> <p>・現代との関連性に気付かせる。</p> <p>・個人発表や何人かでまとめた意見を発表させ、シェアリングすることによって理解を深めさせる。</p> <p>・教師が生徒の発表を整理し、授業のまとめとする。</p>	<p>・交通の整備や貨幣金融制度を確立させ、諸産業の発達をもたらしたことを、諸資料から多面的・多角的に考察することができたか。</p> <p>・自分の意見を発表し、他者の意見を聞いて、認識を深めることができたか。</p>	<p>発表意見</p> <p>ノート</p>

文治政治への転換と幕政改革の断行、町人文化の形成の特質についての基本的な事柄を欧米列強のアジアへの進出とその影響、その後の対外関係や支配構造の変化と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的	我が国の歴史の展開から課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総

に追究し、国際社会に主体的に生き国 家・社会を形成する 日本国民としての責 任を果たそうとす る。	に考察し我が国の文化と伝 統の特色についての認識を 深め、国際社会の変化を踏 まえ公正に判断して、その 過程や結果を適切に表現し ている。	情報を適切に選択 して、読み取った り図表などにまと めたりしている。	合的に理解し、その知識 を身に付けている。
---	--	--	--------------------------

第8章 幕藩体制の動揺と 文化の成熟 1. 幕府政治の転換 2. 経済の発展 3. 学芸の発展と元禄文化 4. 幕藩体制の動揺と幕政 の改革 5. 欧米列強の接近と天保 の改革 6. 江戸中・後期の文化 歴史の説明 近世の結婚 と離縁を調べる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武断政治から文治政治への転換について、幕府の安定と秩序の確立の視点から理解するとともに綱吉の治世・正徳の治を考察する。</li> <li>・幕藩体制の安定は、交通の発達や貨幣金融制度を確立させ、農業・商工業など諸産業の発達をもたらしたことを理解する。</li> <li>・経済の発展により上方を中心とする都市のなかで町人文化である元禄文化が花開いたことを図像・写真資料などを基に理解する。また、幕府の学問として発展する儒学など諸学問についても理解する。</li> <li>・商品経済の発展は幕府の財政にも影響を与え、享保の改革、田沼意次による改革、寛政の改革が行われたこと、それぞれの改革の特色について諸資料を基に考察し理解する。</li> <li>・欧米諸国のアジア進出による世界情勢の変化や幕府の対処から幕藩体制が動揺していく過程を理解し、天保の改革の特色と雄藩の改革の特質について考察する。</li> <li>・江戸中・後期の文化、化政文化について、洋楽や国学などの学問・思想、美術、生活文化などに着目し、図像・写真資料などを基に理解する。また、江戸が文化の中心となったことと地方文化の成長についても理解する。</li> <li>・歴史の説明については、江戸時代の結婚と離縁について諸資料より考察する。</li> </ul>	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	文治政治への転換と綱吉の治世・正徳の治についてその意義を理解している。経済の発展について地域的特色や諸産業ごとの特質に考察している。享保の改革・田沼時代・寛政の改革の特質について考察している。世界の情勢をふまえて幕藩体制の動揺、天保の改革・雄藩の改革について理解している。元禄文化及び化政文化の特色・諸学問の発展に関して図像・写真・諸資料などを活用し説明できる。例示より理解し、他の事例を調べようとしている。
--	---	----------------------------	----------------------------	--

## 3本目：浦教研の授業

野宮典子

先日浦安市の小中学校社会科研究会である「浦安市教育研究会（浦教研）」の授業研究会があり、本セミナーの富澤眞也先生が講師として参加しました。今回は、その授業研の様子を野宮先生が報告してくれました。

# 第1学年3組 社会科学習指導案

指導者 教諭 松尾 直史  
場所 1年3組 教室  
講師 富澤眞也 先生

### 社会科研究主題

自ら考え意欲的に学び、基礎基本を定着させ、言語活動の充実を図るための学習指導の在り方

# 1 単元名 第1節 アジア州 —巨大な人口と急速な経済発展に注目して—

## 2 単元について

### (1) 単元観

中学校学習指導要領地理的分野では、内容(1)世界の様々な地域の(ウ)「世界の諸地域」の各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を設けて、それぞれの州の地域的特色を理解させることをねらいとしている。また、本単元のアジア州の主題を「巨大な人口と経済発展」とした。

アジア州全体の人口増加と経済発展は中国がリードしてきたが、環境問題や経済格差など問題も抱え、アメリカとの関係性も不安定である。その中でインドは人口増加と産業の発展が続いている。産業の面では対アメリカとのICT関連産業が発展している。今後中国と同様環境問題や経済格差の問題も発生してくることが推察できるが、植民地化されていたアジアではなく、西欧諸国と共に発展していくアジアという視点でこの単元の学習を進めていきたい。

また、日本とアジア諸国の関係は、グローバル化が進み、最も大切にしていけるべきものである。アジア州の中心国の1つとして、日本が果たすべき役割を理解し、アジア州を発展させていくという意識を身につけるために、アジア州の地域的特色を理解し、様々な資料を考察する力を身につけることが、この単元を学習する大きな意味があると考えられる。

様々な人種や宗教が混在し、歴史的背景も複雑なアジア州の特色を理解し、考察するとともに、公民的分野の関連にも配慮したい。地図帳を活用し、アジア州の自然環境、産業、生活・文化の特色について概観させる。アジア州での学習方法が、他の地域の学習の際に、有効に活用できるように、話し合いの時間の設定、問題解決的な学習活動などを取り入れる。また様々な立場で自分の解釈を加え論述したりするなど学習活動を充実させていく。

### (2) 道徳教育との関連

この単元で、我が国と関係性の深いアジアの発展を考察することで、今後ますます求められる、近隣諸国と良好な関係を築くための態度を育てていきたい。(4-(10)世界の中の日本人)

### (3) 生徒の実態 (男子15名、女子17名、合計32名) 調査日：9月2日

1年3組は男子15名、女子17名の計32名である。全体的に明るく、男女ともに仲が良い。授業においても、積極的に取り組む生徒が多い。クラスの課題として幼い言動が目立つことがあり、先を見通して行動することがなかなかできず、忘れ物が非常に多い。帰りの会の班会議で課題は見えているのでリーダーを中心に改善する必要がある。

社会科の学習において、授業での発言が特定の生徒に偏ってしまうことがあり、自分の考えを表現したりするのが苦手な生徒が多い。

本単元を学習する前にアンケートを実施した。

①社会科についてどう思いますか？あてはまるものを1つ選び、記号で答えて下さい。また、その理由も書いて下さい。

質問内容	男子	女子	合計
ア. 好きで簡単だし、よく勉強する	4	3	7
イ. 好きで簡単だが、あまり勉強しない	3	2	5
ウ. 好きだが、難しい。しかし、よく勉強する	2	2	4
エ. 嫌いだが、簡単なので、よく勉強する	0	1	1
オ. 好きだが、難しいので、あまり勉強しない	2	1	3
カ. 嫌いで簡単だが、あまり勉強しない	2	3	5
キ. 嫌いで難しいが、よく勉強する	1	2	3
ク. 嫌いで難しいので、あまり勉強しない	1	3	4
<理由>			
(ア) 小学校から得意で、歴史の人物についてもっと知りたい			
(イ) 暗記するのは得意なので、普段はあまり勉強しない。			
(ウ) 歴史は得意だが、地理が苦手なので勉強する。			
(キ) 嫌いなので勉強したくないが、家庭学習でノートにまとめやすいので勉強する。			

②社会科の内容では、どんな分野に興味がありますか？あてはまるものを選び、記号で答えて下さい。また、その理由も書いて下さい。

質問内容	男子	女子	合計
ア. 歴史分野	10	12	22
イ. 地理分野	4	5	9
ウ. 法律・政治	0	0	0
エ. 経済(お金のしくみなど)	1	0	1
オ. その他	0	0	0



<理由>

- (ア) 地理よりも歴史の方が暗記しやすく得意だから。  
遺跡や世界遺産に興味があり知ることができるから。
- (イ) 中学校に入って地理の授業で色々な国について知れたので面白い。  
地図帳を見るのが楽しく、色々な地名を知ることができるから。
- (エ) 将来のために経済について勉強してみたい。

③どんな時に意欲を持って授業に参加することが多いですか？あてはまるものを1つ選び、記号で答えて下さい。また、その理由も書いて下さい。

質問内容	男子	女子	合計
ア. 先生の話し中心の授業	6	5	11
イ. 調べ学習	3	2	5
ウ. 新聞やレポート作り	0	1	1
エ. 班での話し合いや作業	2	1	3
オ. みんなの前で意見を発表するとき	1	1	2
カ. 他の人の意見を聞くととき	0	0	0
キ. プリント学習	2	6	8
ク. 興味深い資料があるとき	1	1	2
ケ. その他	0	0	0

<理由>

- (ア) 教科書を読んでわからなかったところがわかるから。  
教科書以外の歴史のおもしろい話がきけるから。
- (イ) 調べるとよくわかり頭に残るから。
- (ウ) 小学校で新聞をつくったりするのが好きだったから。
- (エ) 自分がわからないところを聞くことができ進めやすいから。
- (オ) 得意な教科なので発表するのが好きだから。
- (キ) テスト前に復習しやすいから。

単元についてのレディネス調査の結果は以下のとおりである。

④「アジア」のイメージは？

(広い・面積が大きい国が多い15名、人口が多い10名、仏教9名、アジア料理7名、イスラム教6名、パクチャー5名、アジア大会5名、発展している3名、暑い3名、台風3名、梅雨3名など)

⑤「アジア州」をさらに細かい地域に分ける場合日本が属するのは？

(正解 東アジア 28名)

⑥西アジアにある国のイメージは？

(イスラム教14名、テロ10名、砂漠9名、危ない9名、ターバン5名、ケバブ3名など)

⑦「インド」の国のイメージは？

(カレー20名、ナン12名、人口が多い11名、ターバン8名、香辛料5名、ヨガ3名、など)

以上のようなレディネス調査で、1学期に学習したこともふまえ、アジアについて、ある程度の知識があり関心があることがわかった。仏教やイスラム教の宗教の知識もあり関心があることが分かった。

#### (4) 指導観

本時では、インドは産業の発展が急速に進む南アジアのなかでも、人口が増え続け高いGDPの成長率を続けている。その経済成長を支える要因の一つとしてICT関連産業がなぜインドで発展しているのかについて追究させていく。またアジアは近世～現代において、西欧諸国の植民地支配を受けていた歴史があるが、アジアから西欧諸国にアジアの利点を発信をしていくことを考え、表現させたい。また資料からは、時差を考える場面をつくり、2年生で学習する導入として細かい説明にならないように配慮したい。

導入段階の課題の生み出しの場面として、インドでICT産業が発展しているハイテクな面と、伝統的な農業や食生活の両面にふれることで興味・関心を引き出したい。

また小学校では、次のような活動を通して、観察や調査によって資料活用能力を高めてきた。

- 観点や質問事項を決めて、詳しく見たり聞いたりするなどの調査を行う。
- 資料から必要な情報を読み取る。
- 資料の全体的な傾向をとらえる。
- 複数の資料を関連付けて読み取る。
- 資料を整理したり再構成したりする。

これらをベースにして、本単元では資料を適切に処理活用して、資料に基づいて考察できるよう、複数の資料を関連付けて読み取る活動を中心にして展開していきたい。

そして、この単元で、我が国と関係性の深いアジアの発展を考察することで、今後ますます求められる、近隣諸国と良好な関係を築くための態度を育てていきたい。

最後に、本校では「言語活動を充実させるための学習指導の在り方」を研究主題にあげている。

レディネス調査の③より、講義形式の授業に意欲を持ち取り組んでいる生徒が多かったことから、本時では、話し合い活動の場面で、相手に伝えること、自分とは異なる意見を聞くことができるようにし、これからの社会の授業において、班活動や話し合い活動に意欲的に取り組める土台作りをしていきたい。また本時のまとめが自分の言葉でできるように授業を展開していきたいと思う。

### 3 指導目標

- 自然環境、産業、生活文化等の特色について概観する中で、特にアジア州の地域的特色を理解するために、「経済発展」に関する学習テーマを設定し、意欲的に追究しようとする。

(社会的事象への関心・意欲・態度)

- 学習テーマを追究していく過程において、その地域的特色と課題を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。

(社会的な思考・判断・表現)

- 統計資料の分析、雨温図・主題図・写真を読み取ったり、図表などにまとめたりすることができる。  
(資料活用 of 技能)

- 自然環境、産業、生活・文化、歴史的背景について、的確に把握できる主題を基に地理的特色を理解し、その知識を身につけることができる。

(社会的事象についての知識・理解)

### 4 単元の評価規準

観点	I 社会的事象の関心・意欲・態度	II 社会的な思考・判断・表現	III 資料活用 of 技能	IV 社会的事象についての知識・理解
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アジア州を地域区分し、地形や気候を中心に、国々や自然などの基本的な特色について関心を高めようとしている。</li> <li>○中国の急速な経済発展と地域の変化について関心をもち、その特色について意欲的に学習している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中国の急速な経済発展や生活の変化について工業化と関連付けて考察している。</li> <li>○外国とのかかわりの中で進んできた東南アジアの工業化の実態について考察している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○さまざまな資料から、アジア州の特色や気候の分布を読み取ったり、白地図や雨温図にまとめている。</li> <li>○さまざまな資料を活用して南アジアの文化や産業の違いを読み取ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アジア州では、降水量によって多様な農業がみられること、国や地域によって多様な宗教が信仰されていることを理解している。</li> </ul>
学習活動における具体的な評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 広く多様性をもつアジア州の自然環境について関心をもち、地域的特色を意欲的に学習しようとしている。</li> <li>② 中国の都市の景観が大きく変化していることに興味を持ち、意欲的に学習しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 急速な経済発展にともなって進行する経済格差や環境問題について多面的・多角的に考察し、その実態や解決策などについて適切に表現している。</li> <li>② 積極的な工業化の推進による変化と日本と東南アジアのかかわりについて考察し、適切に表現している。</li> <li>③ インドで ICT 関連産業が急速に発達した理由を多面的</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 雨温図や景観写真などから雨季と乾季の違いやそれぞれの特色を読み取ることができる。</li> <li>② さまざまな資料を活用して中国の急速な経済発展と地域の変化について読み取ることができる。</li> <li>③ さまざまな資料を活用してインドで ICT 産業がさかんな理由について読み取ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① アジア州における農業分布や宗教分布の特色を理解し、その知識を身につけている。</li> <li>② 西アジアや中央アジアでの経済成長と資源開発や輸出との関連について理解し、その知識を身に付けている。</li> </ul>

	・多角的に考察し、その結果を適切に表現している。	
--	--------------------------	--

## 5 指導と評価の計画（6時間扱い）

時数	学習内容と主な学習活動	具体的な評価規準（評価方法）	教師の働きかけ
1	○アジア州の自然環境 ・ユーラシア大陸の広い範囲をしめるアジアの自然環境に関心を持つ。 ・アジアの気候と季節風の影響を白地図から読み取る。	I-①：広く多様性をもつアジア州の自然環境について関心をもち、地域的特色を意欲的に学習しようとしている。（ワークシート、発表）	○地図帳の利用について確認する。 ○季節風の影響を受ける地域とそうではない地域に区分できることに気づかせる。
1	○地域によって異なるアジアの農業や文化 ・降水量による農業と食文化の違いをつかむ。 ・交流によって広まった宗教の特色をつかむ。	III-①：雨温図や景観写真などから雨季と乾季の違いやそれぞれの特色を読み取ることができる。（観察、発表） IV-①：アジア州における農業分布や宗教分布の特色を理解し、その知識を身につけている。（ノート、ワーク）	○雨温図から、気候帯の読み取りについて確認する。 ○年間降水量と稲作、畑作、遊牧の分布と関連性に気づかせる。
1	○経済発展を急速にとげた中国 ・中国の経済発展に関心を持つ。 ・急速に進んだ工業化と、急速な発展にともなう変化を資料から読み取る。 ・中国の経済発展と地域の変化について、さまざまな資料から読み取る。	II-①：急速な経済発展にともなって進行する経済格差や環境問題について多面的・多角的に考察し、その実態や解決策などについて適切に表現している。（ワークシート） III-②：さまざまな資料を活用して中国の急速な経済発展と地域の変化について読み取ることができる。（ワークシート）	○自分の意見を書けるよう、ワークシートへの記入を促す。 ○グループごとに意見を交流するよう促す。 ○急速な経済発展の裏で、経済格差や環境問題が深刻化していることに気づかせる。
1	○自立の道を歩む東南アジア ・各国で進む工業化と日本との関わりについて考察し、その過程や結果についてわかりやすく表現する。	II-②：積極的な工業化の推進による変化と日本と東南アジアのかかわりについて考察し、適切に表現している。（話し合い、発表）	○東南アジア各国の工業化が、外国との貿易が進展する中で発展してきたことに気づかせる。
1 本時	○産業の発展が急速に進む南アジア ・インドのICT関連産業が発達した理由を考察し、アメリカの企業が開発依頼をする理由を適切に表現する。	II-③：インドでICT関連産業が発達した理由を多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している。（話し合い、発表） III-③：さまざまな資料を活用してインドでICT産業がさかんな理由について読み取ることができる。（ワークシート、ノート）	○高い教育水準（英語・数学）、カースト制度との関連からインドでICT関連産業が発達したことについて気付かせる。
1	○資源が豊富な西アジア・中央アジア ・原油の生産や輸出により、西アジア、中央アジアが経済成長したことを理解する。	IV-②：西アジアや中央アジアでの経済成長と資源開発や輸出との関連について理解し、その知識を身に付けている。（観察、話し合い）	○原油の生産や輸出が西アジアや中央アジアの発展に与える影響について考えさせる。

## 6 本時の指導（4/5）

### （1）目標

- インドでICT産業がさかんな理由について多面的・多角的に考察し、アメリカの企業が開発依頼をする際のポイントを適切に表現している。（社会的な思考・判断・表現）
- さまざまな資料を活用してインドでICT産業がさかんな理由について読み取ることができる。（資料活用の技能）

## (2) 展開

過程	時配	学習内容と主な学習活動	教師の働きかけ（指導・支援）	評価
導入	5	○ 学習課題を設定する。 インドについての資料から本時の学習する国を予想する。 資料①ハイテク産業の様子 資料②茶の畑 資料③ターバン 資料④...	○ 資料を提示する。	
なぜインドではICT産業がさかんなのか？				
展開	35	○ ICT産業がさかんな理由を予想する。（個人→ペア） ・人口が多い ・人件費が安い  ○ ICT産業がさかんな理由を資料から読み取る。 iPadの資料からICT産業がさかんな理由を読み取り、アメリカのICT企業にインドに開発依頼をしてもらえるようなプレゼンテーションを考える。  ◆ 資料から調べる。（個人→グループ） 資料集の資料より 資料①英語が準公用語 資料②人件費の安さ 資料③数学の教育水準の高さ 資料④カースト制 資料⑤アメリカとの時差  ◆ 意見をまとめ発表をする。 各グループ2分	○ 数名発表させる。  ○ 4人班をつくり協力して、全員が記入できるよう促す。 ○ わかりやすい発表になるように机間指導をし、iPadの操作の補助などをする。  ○ iPadを発表の際に各グループのものに差し替える。	Ⅱ－③： インドでICT産業がさかんな理由について多面的・多角的に考察し、アメリカの企業が開発依頼をする際のポイントを適切に表現している。
まとめ	10	○ 学習のまとめをする。（個人） アメリカ企業のソフトウェア開発依頼の相手先を選ぶポイントを確認する。	● 生徒のまとめを発表させて板書すると共に、教師がまとめたものも板書することで、うまくまとめられない生徒を支援する。	Ⅲ－③： さまざまな資料を活用してインドでICT産業がさかんな理由について読み取ることができる。

## (3) 評価

	Ⅱ－③	Ⅲ－③
Bと判断される生徒の姿の具体例	○アメリカの企業がインドにソフトウェア開発を依頼するポイントを資料をもとに適切なことばを使って説明している。意見交換の場で自分の意見や考えを述べている。	○インドでICT産業がさかんな理由について、2つの資料から読み取っている。
Aと判断される生徒の姿の具体例	○アメリカの企業がインドにソフトウェア開発を依頼するポイントを、資料をもとに適切なことばを使って説明している。意見交換の場で論理的に自分の考えを述べ、まとめることができる。	○インドでICT産業がさかんな理由について、3つ以上の資料から読み取ることができる。
Cと判断される	○アメリカの企業がインドにソフト	○インドでICT産業がさかんな理

生徒への支援	ウェア開発を依頼するポイントを、適切な資料を提供し、ワークシートへの記入を支援していく。	由について、読み取らせるため、ペア学習、グループ学習で、ワークシートの友人の意見を参考にする。
--------	--	---

#### (4) 板書計画

なぜインドでは ICT 産業がさかんなのか? 今日の国 = “インド”		予想	プロジェクター用スクリーン
資料①	資料②	・ ・ ・ ↓	
資料③	資料④	まとめ	
		① 英語が準公用語 ② 人口が多く人件費が安い ③ 数学の教育水準が高い ④ カースト制度にとらわれない ⑤ アメリカとの時差	

### 平成30年度 浦教研社会部会

#### 1 研究テーマ

主体的に課題に取り組み、基礎・基本を確実に身につけるとともに、思考力、判断力、表現力を育てる社会科学習のあり方

#### 2 研究テーマについて

この研究テーマにして5年目である。研究の間口を広げるために上記のようなテーマを設定した。こうすることでどんな角度からもアプローチすることが可能となり、子どもたちにとっても、教師にとっても楽しい授業ができるのではないかと考えられる。「社会科って難しい」「どうやって教えたらいいかかわからない」という先生は増えているように思う。

しかし、授業を通じて既存の複数の知識が結びついたとき、子どもたちは「わかった!!」となるし、それが「社会がみえる・世の中がわかる」ことになるのだといえる。

今年度も、主体的に課題に取り組む児童生徒を育成するための方策を、教材や学習形態を通して追究してきた。

## 浦教研 中学校社会科研究授業実践報告

浦安市立浦安中学校 野宮典子

### 1 研究授業概要

1年生 地理的分野 単元 「アジア州—巨大な人口と急速な経済発展に注目して—」 授業者 浦安市立見明川中学校 松尾直史
---

#### ○本時の目標

- ・インドの ICT 関連産業が発達した理由を考察し、アメリカの企業が開発依頼をするわけを適切に表現する。

#### ○準備

- ・学習プリント ・プロジェクター ・iPad 9台（4人に1台） ・スクリーン

#### ○学習活動の流れ

①写真から学習する地域を推測する ・バンガロールの IT 企業（建物） ・ダージリンの茶畑 ・カレー ・ジャイプール（風の宮殿） ・鉄道 ・タージマハル ・ICT 産業の工場ははじめの方で提示した写真は、インドだとは想像できない近代的な建物であり、
---

生徒たちの想像が膨らみ、興味がわく資料である。最後の方に提示したカレーの写真でようやく「インドかも？」と予想できる。ジャイプール建物、タージマハルはインドの観光地、文化遺産で、鉄道は人間が窓から外にはみ出すほど混みあっている。ここから、これから学習するインドには美しい歴史的建造物をはじめとした文化遺産、人口が多い状況、紅茶の産地、をうかがうことができる。

② 1枚の写真で焦点化する

提示した写真の中に1枚だけ現代的なガラス張りのオフィスビルがある。この建造物はバンガロールにあるICT企業であることを知り、自分たちの想像とは異なるインドの姿に驚きや、「何?」「どうなっているの?」といった疑問がわく。

ここで、インドにおいてICT関連産業がさかんなのはなぜか、学習課題を提示した。

③ 個人で予想をたてて、ペアで話し合う。

学習形態を度々変えて「学び合い」を行うことで、学習活動に動きをもたせている。

④ 3～4人班で話し合う。数種類の資料を読み取る活動

「学び合い」にICTを活用することで、生徒の活動の幅が広がると考えた。話し合いで活用する資料はiPadに教師が送り、生徒たちはiPadに取り込まれた資料の中から活用できるものを選択し、話し合い、結論をまとめる。

⑤ 発表する際に、根拠となる、選択した資料を参照できるよう、iPadをスクリーンに投影する。

《iPadに送った資料》

・インドの成長の秘密は数学 ・カースト制 ・世界地図（インドとアメリカ）

・収入別世帯数の変化⑥情報を整理し、グループで話し合う。

班での対話活動を促進させるために、班で1台ipadを使った。支援の必要な生徒も対話に参加しやすいように、ipadの操作補助も必要である。ここでさらに「学び合い」が深まることを期待した。

⑦ 予想できることを発表する。

発表のときにはエアドロップの機能で、教師のタブレットPCに転送させた。生徒たちは活用した資料を提示しながら説明を行う。この場面では「話す力」が重要であることが伺える。発表が終わったところで、教師側から「アメリカの企業が開発依頼をしている実態」が分かる資料を提示する。生徒は「時差」を利用して企業が24時間体制で効率的に生産していることを知る。「なるほど、だからインドなんだ。」という生徒たちの「つぶやき」を拾う場面ができた。

⑧ 本時のまとめ

なぜ、インドでICT産業がさかんなのか、数多くの意見や情報をもとに、「自分はこう思う」という考えをまとめた。

《授業者より》

導入資料の精選をすることは改めて重要だと感じた。その導入資料から学習課題を立てること、子どもたちが疑問を抱き、授業で知りたい、調べたいと意欲を持たせる資料を探す、見せ方に工夫をしていきたい。

学習課題における「なぜ～」という課題を立てることで、皆が考えられる課題が立てられる教材研究に生かしていきたい。

地理の授業の基本である地図を必ず使うことで、空間認識を深める指導を継続的に進めるよう工夫した授業展開を進めていきたい。

## 2 ICTを活用した学習形態

タブレットPCの活用で、「話し合う活動」や「書く活動」にスムーズに取りかかることができた。視覚から情報をつかむことができるため、生徒が意見や気づきを交わしやすい環境ができ、主体的に学ぶ姿勢につながっていくと思われる。また、有効な資料を全体化し、情報を共有する方法として効果的である。

《活用しやすい面》

- ・カメラ機能を使って必要な情報を取り込む。
- ・タブレットPCを活用して説明や発表を行う。
- ・情報と情報を結び付け、整理しやすい。
- ・インターネットを使って調べる。
- ・まとめる活動、発表活動を行う。
- ・タブレットPCを大型ディスプレイにつなげ全体化する。

社会科では学習過程で「調べること」が必要になってくる場面が度々あるので、日常的に地図、資料

集等と並行して、活用 ICT を活用していこうと考えた。生徒が必要な場面でいつでも調べることができる学習形態が整えば、個別の知識・技能、思考力・判断力・表現力等を一層、効果的に、身につけることができるのではないかと考えている。

### 3 アクティブラーニングでの授業づくり

アクティブラーニングの柱である主体性・協同性・創造性を学習活動の中でいかに養っていくかが課題であると感じている。

「社会科は暗記教科、単なる知識の伝達だ」と思われがちであるが、学習活動では単なる知識の習得のみではなく、自ら学ぶ意識を育てなければならない。知識と知識を結び付けるために、情報や知識を整理する力も必要である。したがって、社会科は主体的な学びの必要性が大きい教科であり、アクティブラーニングを実践していくことで、効果的に学習活動が進められると思われる。

#### 《アクティブラーニングで目指す力》

- (1) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
- (2) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
- (3) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）

アクティブラーニングでは、協同性が重視され、全員役割をもつことが前提である。当然、発表を行うときは参加者に分かりやすく説明することが求められ、聴く側も「うなずく」など、参加している態度が大切である。

つまり、学習活動の中で「良質なコミュニケーション」が求められるので、学習規律や学習環境を整えることや、日常からの学級経営はとても大切であると感じた。

また、学習活動の場をすべて生徒の判断に委ねてしまうことは、本時の目標からずれた学習活動になってしまったり、重要な情報を見落とすこともある。特に中学生の学習活動では、学力の個人差が学習活動に影響する場面もある。そこで、教師は学習活動をサポートし、必要な場面で指導する立場でなければならないと感じた。

したがって、一斉授業で必要なことは教師が教え、誘導することは必要だと私自身は思っている。本時の授業では、「アメリカの企業が開発依頼をする際のポイント」の資料を教師側から提示し、多面的、多角的に考える場を設定することができた。また、「なぜ、インドで ICT 産業が盛んなのか」について、生徒たちに「複合的な要因」があることに気付かせ、まとめることができた。

アクティブラーニングについては、様々な議論があるが、良い部分を取り入れていくことが必要だと感じた。

## 11月社会科セミナー参加者からのコメント

- ◎インドのバンガロールの ICT 企業の建物の写真で生徒を驚かせて、そこから「なぜインドでは ICT 産業が盛んなのか」という「問題解決型学習」にもっていったのは良かった。
- ◎「インドでは ICT 産業が盛んである」という事実をつかませるにはバンガロールの写真だけでは不足。追加資料、特に数字資料を教師が示して補足する必要がある。
- ◎調べ学習に iPad を使用させたのが評価できる。当該授業の学習効果の面だけでなく、情報化が進展していく社会に生きる生徒たちに便利な ICT 機器に慣れ親しませておくのはよい。
- ◎インドには様々な特色がある。①人口が多く爆発的に増加している。②イギリスの植民地になったことがある。③広い国土で様々な気候がある。④北は畑作で小麦、南は稲作が盛ん ④他民族・他宗教国家 ⑤近年 ICT 産業が盛んになってきている ⑥近年経済成長が著しい、などインドには様々な特色がある。教科書では教科書という性格上それらをほぼ網羅的に記述しており、さらに南アジアの他の国にも触れている。本時の指導で仮に「教科書を教え込む学習指導」をすると知識理解事項が繁多で1時間で足りなくなる恐れがあるし、生徒は受け身の学習になりがちで学習意欲がそがれる傾向がある。それが「アクティブラーニング」が求められるゆえんである。授業者の松尾直史先生は本時の中心的な理解（これは「中心概念」の考え方に通じる）として、「⑤インドでは ICT 産業が盛んである」という事実と絞っている点は注目される。それによってその後の「問題解決型学習」が可能になっている。
- ◎本時の目標が良い。本時は単に「インドでは ICT 産業が盛んである」という知識理解事項にとどまらず、「それはなぜ」ということを「問題解決型学習」で多面的・多角的に考えさせることで思考力・判断力を育成する狙いがあることが評価できる。しかもそれを「グループ学び合い」にしたことも良い。
- ◎本時目標の一つが、「さまざまな資料を活用してインドで ICT 産業がさかんな理由について読み取ることができる。（資料活用の技能）」となっているが、単に、教師の示した資料を読み取れたかどうかという「資料読み取り能力」を問うという学習になっているので、生徒の学習意欲を増大させにくい。インドで ICT 産業がさかんな理由にせまる資料を探し出すという面白みはない。従って本時

目標の「さまざまな資料を活用して」という部分は達成できない。そのような学習活動をさせていない。

◎教師提示の資料読み取りについて、コースト制がどうICT産業と結びつくのかを読み取ることはこの資料では難しい。インドでは現在でもコーストで職業が決められている現実があるが、ICTに関わる仕事は極めて新しいために古くからのコーストの制限に漏れてしまっていて、誰でもICTの仕事に就くことができるという理解はこの資料からは困難である。

◎別プランとして、

1. インドはどんな国？

○生徒はすでに事前調査でこの問いに答えている

○5分程度時間を与えて教科書から、読み取らせてもよい（それが教科書のどこに書いてあるか）

2. 上記の①～⑥の中から「⑤近年ICT産業が盛んになってきている」を取り上げて教師が補足

3. 「なぜ、インドではICT産業が盛んであるか」グループ学び合いで考えさせ、発表させる。

4. 自分のグループの主張の根拠となる資料または事実を探して挙げさせる。

5. 「アメリカの企業が開発依頼をする際のポイント」は検証資料として使う

このプランだと、

○1. に少し時間はかかるが、

○インドの特色①～⑥に触れ、ごく簡単に理解させることができる。

○「なぜ、インドではICT産業が盛んであるか」を根拠のない当てずっぽうの考えから、根拠のある考えにさせることができる。

○「なぜ、インドではICT産業が盛んであるか」について自分たちのグループの主張に自信ができるので、主張の根拠となる資料・記述探しに意欲が持てる

○最後に、教師の示す「検証資料：アメリカの企業が開発依頼をする際のポイント」に興味を持ちやすい。

## 4本目：社会科指導法講座 1

池田義光

今回の学習指導要領改訂の目玉は「主体的・対話的で深い学び」の推進であり、今後の社会科指導としても「主体的・対話的で深い学び」は学習指導の核となるべきことである。当セミナーとしては、このことについて、セミナー会員が実践していく上で少しでもサポートになればと思い、これから「社会科指導法講座」として何回かのシリーズ化して、「主体的・対話的で深い学び」を進める社会科指導について取り上げていきたい。

2018. 11. 17社会科セミナー

～社会科指導法講座 1～

# 「主体的・対話的で深い学び」を進める社会科指導について

池田義光

## 【1】改訂学習指導要領と「主体的・対話的で深い学び」

### 1 改訂学習指導要領の実施

先行実施は、2018年度から小学校と中学校で。

全面実施は、小学校は2020年度から、中学校は2021年度から。

### 2 学習指導要領の改訂の主なポイントのうち、学習方法については？

学習方法として、討論や議論を中心とした「主体的・対話的で深い学び」を実践する。

### 3 学習指導要領見直しの視点

今回の学習指導要領の学ぶ内容は減らさない。代わりに従来の学習指導要領の中心だった「何を学ぶのか」に加えて、「どのように学ぶのか」「何ができるようになるのか」といった視点で見直す。

### 4 「総則」に定められたのは？

(1) 学校に「生きる力」を育むことを求めている点は、これまでと変わらない。

(2) 改訂案の特徴は、そのために、3つの育てるべき資質・能力を示したこと ①知識や技能 ②思考力・判断力・表現力 ③学びに向かう力、人間性



(3)「アクティブ・ラーニング」の言葉は外し、「主体的・対話的で深い学び」という表現で統一した。

## 5 「アクティブ・ラーニング」の言葉を外した理由は？

文科省の担当者は「学習指導要領は広い意味での法令にあたり、定義がないカタカナ語は使えない。アクティブ・ラーニングは多義的な言葉で概念が確立していない」と言う。しかし、「アクティブ・ラーニング」が示した能動的に学ぶ授業の重要性は変わらないとして、改定案では「アクティブラーニング」という言葉に代わって「主体的・対話的で深い学び」という表現が使われている。

# [2] アクティブ・ラーニングについて

## 1 アクティブ・ラーニング (Active Learning) とは？

(1)Active (学修者が能動的に) Learning (学修) に参加する学習法の総称

(2)【文科省・用語集】によると、「アクティブ・ラーニング」とは、

教員による一方的な講義形式の教育と異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学習することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

※「学習」と「学修」…大学での学びを「学習」でなく「学修」と表現するようになった。きっかけは平成 24 年 8 月の「中教審答申」。大学設置基準では大学の学びは「学修」としている。本来、大学での学びは、講義や演習、実験などとともに、事前の準備や事後の展開などの主体的な学びに要する時間（それらをまとめて「学修」と称す）を内在した「単位制」により形成されていることによる。

従って小・中学校では、通常は「学習」と表現してもよいようである。

## 2 「アクティブ・ラーニング」と「活動的な学習」との関係は？

グループ学習や体験学習など学習者が身体を動かしながら学習する方法は「活動的な学習」だが、「アクティブ・ラーニング」は、受け身ではない能動的・主体的な学習方法の総称であり、「活動的な学習」だけに限らない。

## 3 なぜアクティブ・ラーニングが求められるようになったのか？

(1)2012(平成 24) 年の中教審答申で、大学教育改革の方法として

2012(平成 24) 年の中教審答申で、大学教育改革の方法として、「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて、生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」を旨とするために、従来の知識の伝達・注入を中心とした学習者が受け身の授業に対して、アクティブ・ラーニングへの転換が求められた。これをきっかけに、広くアクティブ・ラーニングが特に高等教育で注目されるようになった。

(2)2014 年 11 月の諮問文で初等中等教育にも拡大

さらに 2014 年 11 月、文科大臣の中教審に対する「初等中等教育における教育課程の在り方について」の諮問文でアクティブ・ラーニングという言葉が、初等中等教育にも拡大された。

(3)2016 年 8 月の中教審「審議のまとめ」で、学習指導要領改訂の方向性として

2016 年 8 月の中教審の「審議のまとめ」で、学習指導要領改訂の方向性(案)として、「どのように学ぶか：主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点から学習過程の改善を求める。

# [3] 船橋・浦安は「主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)」にどう取り組むべきか

## 1 船橋・浦安は、従来から三本柱で取り組んできた

「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」と言うのは、Active(学修者が能動的に) Learning(学修)に参加する学習法の総称であり、教員による一方的な講義形式の教育と異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称である。その意味で、船橋・浦安の社会科では「問題解決型学習」「学び合い」「中心概念」の三本柱で、従来から「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」に取り組んで来たと言える。

「問題解決型学習」と「学び合い」については、前述の【文科省・用語集】で「問題解決学習」や「教室内でのグループ・ディスカッション、グループ・ワーク」を例示するように「問題解決学習」及び「学び合い」は有効なアクティブ・ラーニングの方法であり、これからもどんどん取り組み充実させるべき学習方法である。

また「中心概念」はそれを設定する理由が、従来の知識の伝達・注入を中心とした学習者が受け身の授業に対して、主体的な学習への転換を図るために、学習者に学ばせる中心の概念(知識・理解事項)を整理するための方策となるものであり、「中心概念と単元の構造化」が図られることで、「問

題解決型学習」や「学び合い」の授業が進めやすくなるものである。

従って、船橋・浦安の社会科では、従来の三本柱の授業の研究と実践の蓄積の上に、三本柱の授業の実践と研究を更に進め、充実させていくべきと考える。

## 2 船橋・浦安の三本柱「中心概念」「問題解決型学習」「学び合い」の実践の現状調査結果

先日、船橋市社会科セミナー会員の皆様に、ショートメールで次のようなお願いをした。

『平成24年の社会科研究関東ブロック大会船橋大会の三本柱「中心概念」「問題解決型学習」「学び合い」が現在の学校現場でどの程度実践されているかを教えてください』

以下は、そのお返事から、関係部分だけを抜き書きしたものである。

(なお、関ブロ船橋大会では千葉県社会科研究会で研究を担当した船橋支部会は船橋市と浦安市の合同でしたので、以下の文には船橋市と浦安市が含まれ。)

Aさん：現場に疎くなりました。風聞では三本柱は骨董化したようです。

Bさん：私の実践では、毎時ではないが単元で1回か2回は「学び合い」をするようにしています。

Cさん：2・3校ぐらいしか見ていませんが、「学び合い」以外は定着していると思います。

Dさん：私が船橋にいた3年前は、小教協の基調提案で発表し、授業研究でもそのとおりに行っていました。

Eさん：船橋市の現状では、指導案の段階では三つとも意識されたものになっています。

Fさん：副読本『私たちの船橋』では、「中心概念」は全単元に記載してあります。手引きには「問題解決型」の指導計画があります。「学び合い」については来年度の検討となっています。中学の千葉先生が指導課に入り、「学び合い」について助言いただいています。

Gさん：よくわかりませんが、「学び合い」や「問題解決型学習」はやっているのではないかと思います。三本柱でやっているかは、中学校の指導案を見ていないので分かりません。

Hさん：24関ブロの三本柱は基本的には現在も継承されています。また、それに加えて「主体的・対話的で深い学び」「主権者教育」の要素を取り入れています。関ブロで学ばせていただいたこと、諸先輩方が築いてくださった社会科の功績をしっかり引き継いでいきたいと思っています。関ブロの成果を踏まえつつも、「船橋版・社会科の在り方」を追究するために、私自身、日々勉強しています。

Iさん：社会科副読本では三本柱を意識した編集がされていると思います。また船橋市で力を入れ始めている「主権者教育」では当時の研究の肝であった「社会参画」の考えが活かされていると思います。

Jさん：浦安では、「中心概念」を置く指導が定着していません。おそらく指導案作成で何が「中心概念」であるかを設定することが難しいからではないかと思われます。「問題解決型学習」は調べることを学習過程に取り入れており、ICTを活用して調べさせる学習形態も定着してきています。発表させる段階でもICTが効果的であるため活用しています。「学び合い」は多くの学校で調べる段階でグループでの「学び合い」になっています。ペア学習はあまり見ていません。グループの組み方は4人が定着しており、船橋から入ったと思われる机の置き方で4人で学習させています。

Kさん：関ブロ後も、千教研や南本町小、社会科副読本では、三本柱を踏襲していました。今でも、細々と続いているものと思います。個人的には単元を通して学習問題を作って、観点ごとに調べを進める「問題解決型学習」はだいぶ推し進められたかなと感じました。ここ1~2年は船橋を離れてちょっとわからない部分もあるのですが、なくなっただけではないはず。南本町小は今でも研究を社会科にしていると聞いています。しかし、南本町は、最近では、公開を経験していない方や初任の方、市外から来た方もたくさん増えており、指導案の形としては残っていますが、以前ほどしっかりした形ではないようです。概念的なことよりも授業などの指導法が急務で優先せざるを得ない状況もあつたり、社会科を率先して学んでの方がいなくなってしまうので授業の進め方、資料の提示の仕方、ノートの書かせ方などを中心していると思います。正直、社会科より国語や算数にしようという意見もあり、今は何とか研究校として残っていますが、それもそろそろ変わってしまうかもしれないです。千教研でも同じようなことが言えるのではないかなと思います。また、学習指導要領が改訂されて、「アクティブラーニング」改め「主体的・対話的で深い学び」が入ってきたため「学び合い」の方法なども曖昧になった様にも思います。

Lさん：三本柱の件ですが、世帯交代が進み、細かいところでは見直しが進められているようですが、基本線は踏襲されているようです。現指導主事も指導案の簡略化に取り組みつつも、この点は押さえているようです。ただし、若い人や若い部会の中では、そもそも構造化の考え方が理解できていなかったり、「学び合い」もアクティブラーニングの広がりや追い風になってはいますが形だけになってしまっている面もあるようです。

Mさん：最近の社会科部会は指導課から「主権者教育」と言われていて、特にアクティブラーニングを取り入れた授業実践を推進しているところです。

Nさん：三本柱ですが、問題解決意外は定着しているように思います。

Oさん：個人差はありますが、中学の先生は三本柱の実践をしている人が多いように思います。小学校では社会科部の人は教材研究を行い三本柱で実践していますが、社会科が苦手な先生は一方的な授業が多いようです。また行事が重なるとなかなかいい実践ができない傾向があります。

### 3 三本柱の実践を深めるために

1で前述したように、船橋・浦安の社会科では、従来の三本柱の授業実践を更に進め、充実させていくべきである。しかし、2の調査結果のように現状には、実践が進んでいる所もあれば、ほとんど進んでいない所も見られるようである。そのうえで実践を進め、深めるにはどうすればいいか、授業者各自の努力に待つところであるが、本セミナーでは今後「社会科指導法講座」として「三本柱への取り組み」を取り上げていくことで少しでもその支援になるように心がけていきたい。

## 次回社会科セミナー予定 期日未定

＜勉強会＞は、船橋市勤労市民センター **1時** 集合

1. 知っ得ニュース（池田）
2. 池さんの歴史ナルホド（池田）
3. 日本史豆知識（池田）
4. 社会科指導法講座（池田）
5. 『日本史の論点』から（池田）
6. その他（報告者募集中！）

※終了後 船橋駅周辺で 4：45頃から＜懇親会＞

⇒会員の皆様は、出席・欠席をできれば 2週間前までに  
池田宛てにショートメール(09023132569)でお知らせください  
なお、池田宛のパソコンメールは ikeyoshi.24@gmail.com

**お知らせ： 社会科セミナーのホームページは  
＜船橋市社会科セミナー＞ で検索ができます！**

本セミナーのお知らせは、このホームページで行います。「次回の社会科セミナーのお知らせ」や「社会科セミナー通信のバックナンバー」「タイ見聞録」「台湾見聞録」「ベトナム見聞録」「韓国見聞録」「沖縄紀行」も公開されておりますので是非ごらんください。